

宇都宮都市交通戦略【概要版】

★誰もが利用できる 環境にやさしい 交通ネットワークを目指して★

1. 本計画の位置付け

「第5次総合計画」や「(仮称)第2次都市計画マスタープラン」における都市づくりの方針を踏まえた「ネットワーク型コンパクトシティの実現を支える交通ネットワーク」の形成を目指し、関係者と連携して進める計画。

2. 計画年次

- 2009年から2018年(平成30年度)の10年間
- ◆短期 3年(平成21年度～平成23年度)
- ◆中長期 7年(平成24年度～平成30年度)

3. 都市と交通の現状と課題

- ◆少子・超高齢社会と人口減少時代の到来
- ◆地球環境問題の深刻化
- ◆モータリゼーションの進展
- ◆都市の肥大化
- ◆公共交通の衰退

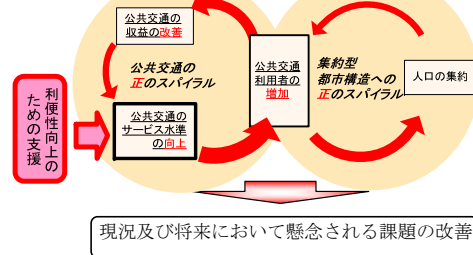
4. 本市が目指す都市交通の将来像

<目指すべき方向>

- ◆効率的な都市への体質改善
- ◆活力を維持するために必要なまちの魅力向上
- ◆将来的に持続可能な公共交通ネットワークの確立
- ◆利用者・事業者・行政機関が連携した取り組み

<目指すべき将来像>

サービス水準の向上を軸とした公共交通の正のスパイラルへの転換を図る。



5. 都市交通戦略の基本理念

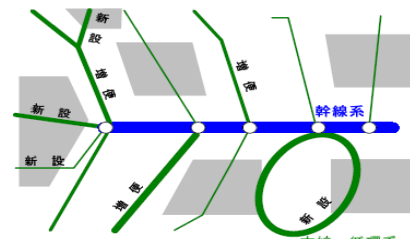
交通体系の構築にあたっては、関係者相互の連携のもと、以下の3つの理念により進めていく。

- 理念1: 都市機能の集約と円滑なモビリティの確保により、ネットワーク型コンパクトシティを実現
- 理念2: 利便性・明示性・効率性の高い、持続可能な交通ネットワークの整備を推進
- 理念3: 関係者相互で連携し、公共交通を守り、育てる“マイバス”、“マイレール”意識を醸成

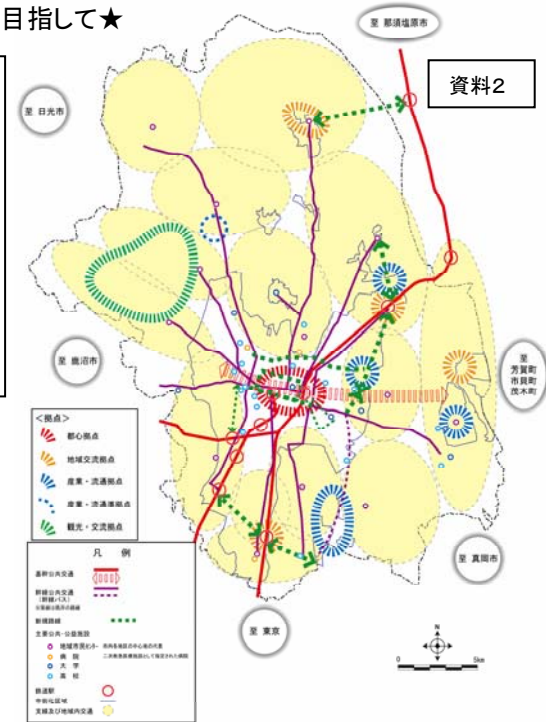
6. 将来の公共交通ネットワーク

公共交通空白・不便地域の解消に向けて、階層性を持った効率の良い公共交通ネットワークの再構築を行う。

- ◆バス路線が集中している大通り等に、「輸送効率の高い交通システム」を構築する。
- ◆幹線における輸送効率の向上により、支線の運行本数の増加や新規路線への振り分けをする。
- ◆輸送効率に対応した「幹線、支線からなる公共交通システム(魚の骨ネットワーク)」への転換を図る。



魚の骨ネットワーク



目標とする公共交通ネットワーク

7. 目標とする交通環境・主な施策事業及び目標指標

- 目標Ⅰ 誰もが移動しやすい交通環境を整備する
 - ◆短期: バス路線の新設, 地域内交通の導入 など
 - ◆中長期: 基幹公共交通の整備, トランジットセンターの整備 など
 - ◆目標指標: 公共交通利用者数【3,391万人(H18)⇒4,200万人(H30)】など
- 目標Ⅱ まちづくりに資する交通環境を整備する
 - ◆短期: 都心部道路景観整備事業, レンタサイクルの充実 など
 - ◆中長期: 幹線バスの充実, 循環バスの運行 など
 - ◆目標指標: 公共交通夜間人口カバー率(市街化区域)【75%(H20)⇒100%(H30)】など
- 目標Ⅲ ひとや環境にやさしい交通環境を整備する
 - ◆短期: 人にやさしいバスの導入, モビリティ・マネジメントの実施 など
 - ◆中長期: 環境にやさしいバスの導入 など
 - ◆目標指標: ノンステップバスの導入率【13.7%(H19)⇒30.0%(H22)】など

8. 推進体制と進行管理

交通戦略プログラムの着実な実現のために進行管理体制を構築し、定期的に計画の進行状況を確認するとともに、目標達成状況を確認し、必要に応じた計画・目標の見直し・提案を行っていく。(PDCAサイクル)

- ◆市民, 交通事業者, 行政がそれぞれの立場から施策事業に参画することが重要であり, そのような場として, 戦略を推進する組織を設け, 事業の進行管理を行う。
- ◆行政は「目標とする交通環境」を実現する施策事業を積極的に実施・支援し, 交通事業者は, 自社の持続性向上に繋がる事業を積極的に実施し, 市民は行政等に協力して積極的に公共交通を利用するよう努めるなど, 各主体の役割分担を定める。